

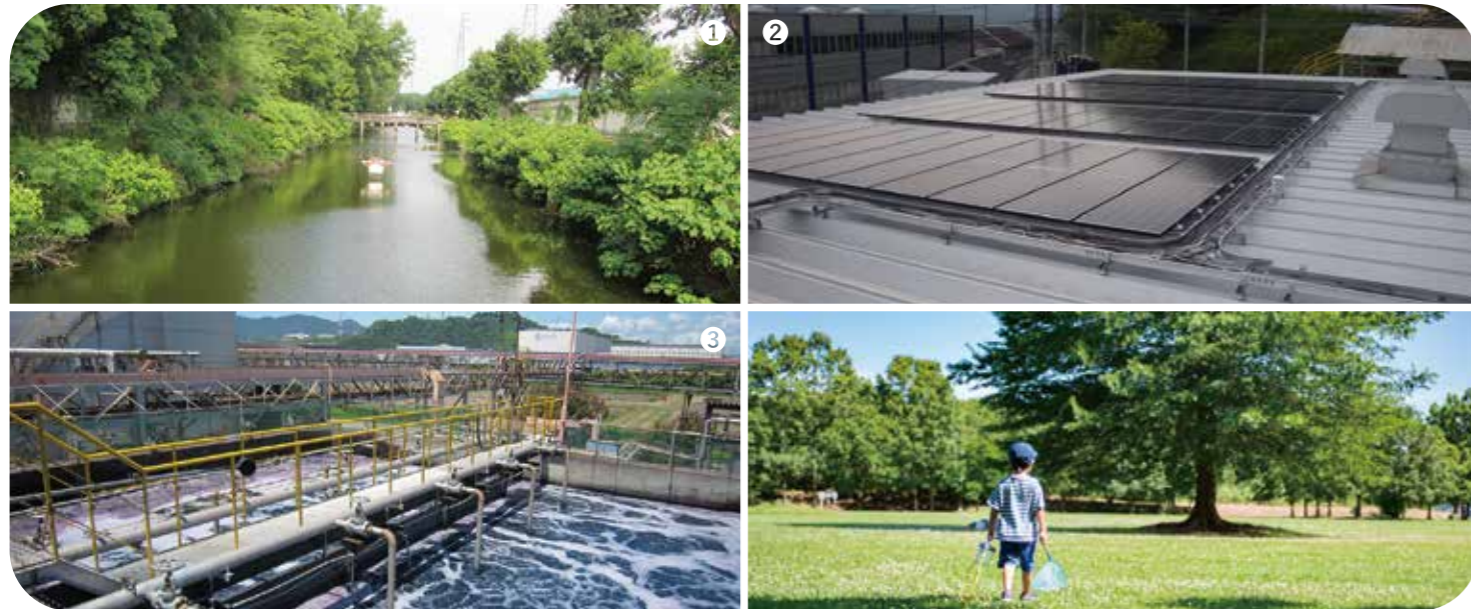
地球環境とともに

Together with global environment

「環境・安全衛生・品質」に関する課題を、あらゆる経営課題に優先し、グループ全体で取り組みます。

マネジメント・アプローチ

日本化薬グループは、CSR理念とレスポンシブル・ケア精神による「環境・健康・安全と品質に関する宣言」に基づき、持続可能な社会を実現するため「安全第一」「環境経営」「健康経営」につながる活動を展開しています。2018年度レスポンシブル・ケア方針では、生物多様性への配慮についても掲げました。今後も社会情勢の変化による「リスク」と「機会」を認識し活動を続けていきます。



① 高崎工場クリーク ② 姫路工場太陽光パネル ③ 福山工場 廃水処理場

日本化薬 中期環境目標と2018年度の実績

	地球温暖化防止		化学物質排出量削減		廃棄物削減		
	エネルギー起源CO ₂ 排出量*1 (生産部門+業務部門)	VOC*2排出量	COD*3排出量	廃棄物発生量	リサイクル率	ゼロエミッション率*4	
2018年度実績	69.7千トン	25.6トン	133.7トン	21,491トン	81.4% 工場外移動量 20,080トン 内、産業廃棄物 最終埋立処分量 874トン	4.1%	
前年度比	2.2%減	4.5%増	1.2%増	4.5%増	1.7ポイント増	1.5ポイント減	
2020年度目標値	79.5千トン以下	42トン以下	150トン以下	23,500トン以下	80%以上	3.0%以下	

*1 エネルギー起源CO₂排出量：2005年度(82.6千トン)を基準として3.8%削減が政府方針

*2 VOC：Volatile Organic Compounds(揮発性有機化学物質) 集計には政令で報告対象となっている化学物質以外に反応で副生する化学物質等、大気中に放出されるすべての化学物質を含めて管理

*3 COD：Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量) 水中の物質を酸化するために必要とする酸素量で、代表的な水質の指標の一つ

*4 ゼロエミッション率：日本化薬では廃棄物発生量全体に対する内部および外部埋立量の割合として定義

日本化薬 地球温暖化防止の取り組み

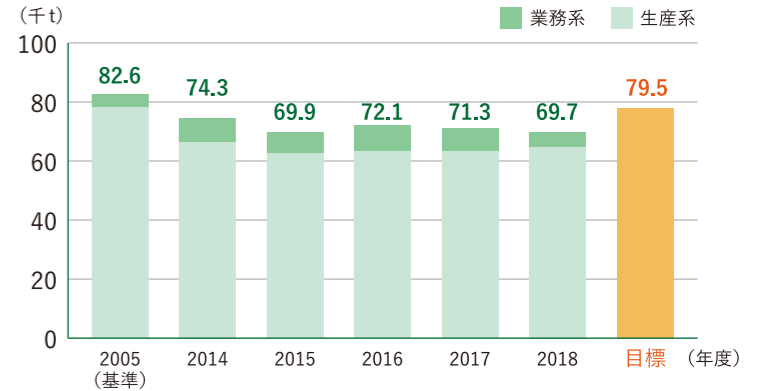
日本化薬の各事業場では、ユーティリティ設備の運用改善や高効率設備への置き換え、照明のLEDへの変更などの省エネルギー対策に取り組んできました。

また、従業員の各家庭でのCO₂排出量削減を促すため、電気使用量だけに特化した「わが家はただいま節電中!」を企画し、省エネ活動を推進しています。



なお、地球温暖化対策としては、パリ協定(COP21)を勧告し、2030年度中期環境目標値をより厳しくすべく内容を検討しています。従来の省エネルギー対策の手法だけでなく、エネルギーロスそのものに着目した活動に注力しています。

エネルギー起源CO₂排出量



日本化薬グループ 廃棄物削減の取り組み

産業廃棄物削減のCHANGE&CHALLENGE

株式会社ポラテック*は、主力製品である「偏光板」の生産工程から廃プラスチック類・廃樹脂・廃液などの産業廃棄物を排出しています。そこで、廃棄物の発生抑制・リサイクルや省資源化に継続的に取り組むため、産業廃棄物削減部会を結成し、廃棄物削減のアイデアを従来の手法にとらわれず(CHANGE)、実現することに挑みました(CHALLENGE)。

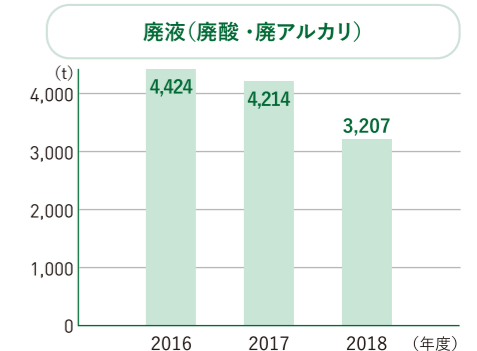
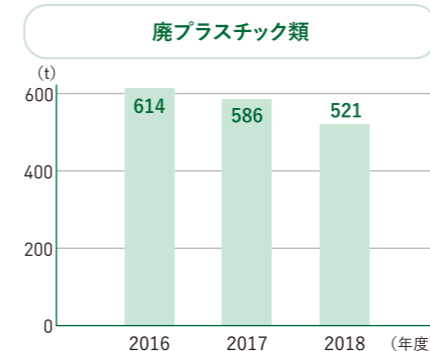
まず、2016年度の結果をゼロエミッションの観点で考察・検討し、少量多品種の製品構成に伴う工程の切替え時に原材料や製品在庫量を調整しながらまとめ生産を行い、廃プラスチック類・廃液を削減しました。次に、粘着加工工程で調合する樹脂量の最適

を見極め、余剰発生する廃樹脂の削減を実現しました。2018年度は廃液を再利用するリサイクル設備が稼働し、廃液を大幅に削減することができました。

環境にやさしい事業運営ができるよう引き続き産業廃棄物の削減に取り組めます。



ポラテックノ産業廃棄物排出量



* 株式会社ポラテック：新潟県上越市にある偏光フィルムをはじめとした光をコントロールする部材の製造会社